

新潟大学の魅力と現在を発信  
新潟大学季刊広報誌 [RIKKA]  
2023.AUTUMN  
NIIGATA UNIVERSITY MAGAZINE No. 46

特集

コロナ禍を経て  
△ 感染拡大、対応と新たな成長△

## 授業紹介 -教育の現場-

Enjoy! 学生ライフ

注目される研究報告

教員によるコラム“知見と生活のあいだ”

新大メモリアル写真館 あのとき、あの場所

基金関係のお知らせ

Campus Information



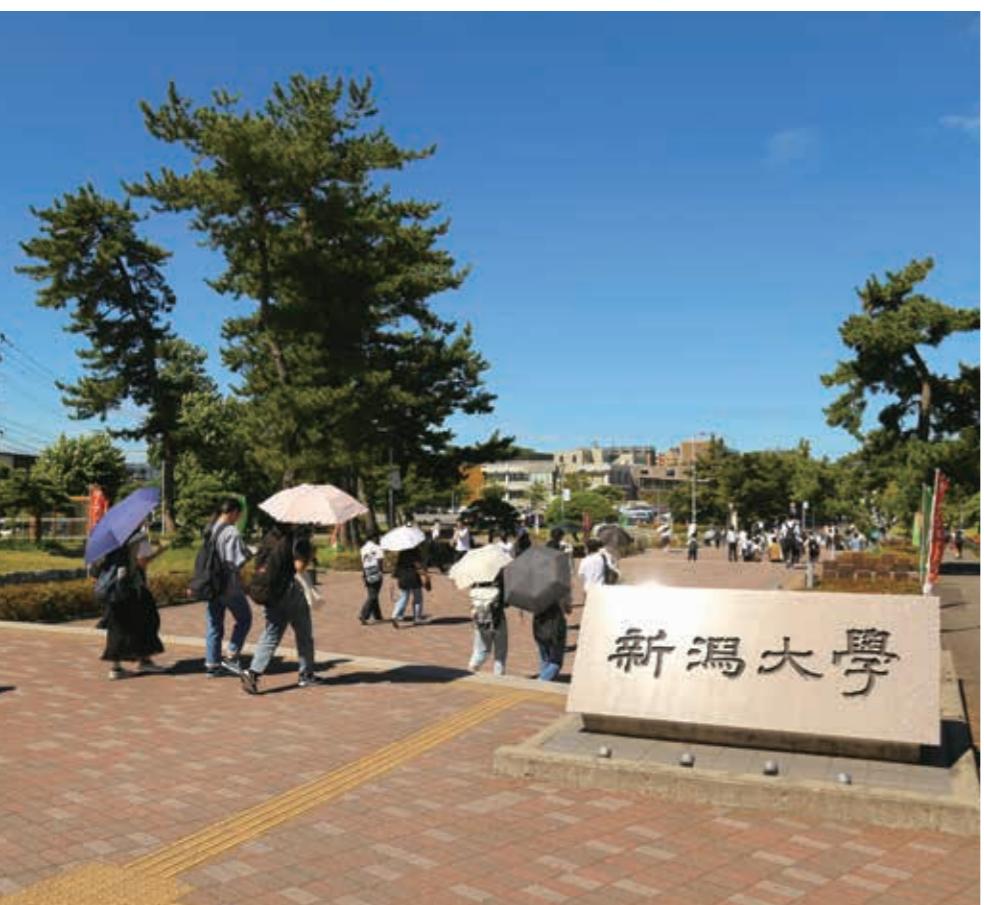


Cover Photo

対面授業が基本となり、キャンパスに活気が戻ってきた。

特集

# コロナ禍を経て ～感染拡大、対応と新たな成長～



4年ぶりに対面開催となったオープンキャンパスには活気が戻ってきた

2020年1月、国内初の感染者が確認された新型コロナウイルス。

現在もなお感染の波はあるものの、2023年5月の5類感染症への移行を機に、少しづつ以前の日常を取り戻す流れにある。

コロナ禍で失ったものも大きいが、そこで得たものと前進したものもある。

パンデミックの渦中における新潟大学の約3年半を総括する。

「感染症の大流行は人類の歴史の中で度々発生してきました。古くは天然痘やペスト、近年ではインフルエンザ、20年前にはSARSが大流行しました。新型コロナウイルスも発生直後から、『局所で終わらざるパンデミックになる』と予想されていましたし、1918年からのインフルエンザ大流行の資料を参考にすると、

心に振り返る。



新潟大学  
牛木辰男 学長

収束まで数年を要する長丁場になると私自身も予想していました。真っ先に着手したのは、パンデミックにより制限される大学活動への対応を二元化するための組織の立ち上げです」

県内の1例目の感染者が確認されるのに先駆けて、2020年2月27日、新型コロナウイルス感染症対策本部会議が設置された。学長を中心理事、保健管理センター所長、感染症や公衆衛生の専門家等で構成される会議は、感染状況が落ち着く2023年までほぼ毎週開催され、学内における感染対策、感染状況に応じた対策の変更、様々な問題の解決策について検討してきた。2020年3月下旬から5月中旬にかけての第1波の時期には、卒業式や入学式が中止され、非対面での授業が実施されるなどの対応が取られた。

2023.AUTUMN No.46

## CONTENTS

03 特集

### コロナ禍を経て

～感染拡大、対応と新たな成長～

08 授業紹介 -教育の現場-

09 Enjoy! 学生ライフ

10 注目される研究報告

12 教員によるコラム“知見と生活のあいだ”

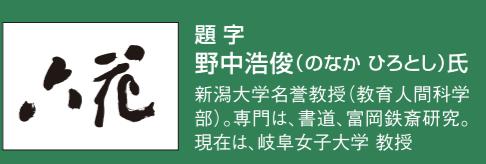
13 新大メモリアル写真館 あのとき、あの場所

14 基金関係のお知らせ

16 Campus Information

### 『六花』とは…

本誌のタイトルでもある『六花』とは、本学の校章のモチーフである“雪の結晶”を表す言葉。本学の校章は、シンボルマークであった学生章をモチーフに本学名誉教授 小磯 稔氏がデザイン化したものです。



題字  
野中浩俊(のなか ひろとし)氏  
新潟大学名誉教授(教育人間科学部)。専門は、書道、富岡鉄斎研究。現在は、岐阜女子大学 教授

新潟大学SNS公式アカウント

f @niigata.univ

X @Niigata\_Univ\_O

Instagram @niigata\_university

2019年12月から2023年5類感染症移行までの動き

|              | 新潟大学の主な動き   | 社会の動き                  |
|--------------|---|------------------------|
| 2019年<br>12月 |   | 中国湖北省武漢市で感染者確認         |
| 2020年<br>1月  | ・保健管理センターから注意喚起   | ● 国内1例目確認              |
| 2月           | ・対策本部会議の設置  | ● 県内1例目確認              |
| 3月           | ・課外活動の全面停止  |                        |
| 4月           | ・卒業式の中止<br>・入式の中止<br>・授業開始を2週間繰り下げ<br>・全員非対面授業の実施<br>・県外への移動自粛要請<br>・感染拡大防止のための行動指針策定 | ● 第1波<br>● 緊急事態宣言      |
| 5月           | ・新型コロナ対策緊急学生サポートパッケージスタート   |                        |
| 6月           | ・一部対面授業の再開<br>・課外活動の条件付再開   | ● 第2波                  |
| 7月           |   |                        |
| 8月           | ・オープンキャンパスのオンライン開催  |                        |
| 9月           | ・秋季卒業式の中止   |                        |
| 10月          | ・秋季入式の中止<br>・新大祭をオンライン開催  | ● 第3波                  |
| 11月          |   |                        |
| 12月          |   |                        |
| 2021年<br>1月  |   |                        |
| 2月           |   |                        |
| 3月           | ・卒業式を各キャンパスで挙行  |                        |
| 4月           | ・入式を各キャンパスで挙行<br>・座席管理システムの導入   | ● 第4波                  |
| 5月           |   |                        |
| 6月           |   |                        |
| 7月           | ・学内の職域接種実施(第1期)   |                        |
| 8月           | ・オープンキャンパスのオンライン開催  | ● 第5波<br>● 新潟県全域特別警戒警報 |
| 9月           | ・学内の職域接種実施(第2期)<br>・秋季卒業式の中止  |                        |
| 10月          | ・秋季入式の中止<br>・学内でのPCR検査開始<br>・学内の職域接種実施(第3期)<br>・新大祭をオンライン開催                           |                        |
| 11月          |   |                        |
| 12月          |   |                        |
| 2022年<br>1月  | ・学内での濃厚接触者把握が開始   | ● 第6波<br>● 新潟県に重点措置    |
| 2月           |   |                        |
| 3月           | ・卒業式を朱鷺メッセで挙行   |                        |
| 4月           | ・入式を朱鷺メッセで挙行<br>・学内の職域接種実施(3回目追加接種)   |                        |
| 5月           | ・学内の職域接種実施(3回目追加接種)   |                        |
| 6月           |   |                        |
| 7月           |   |                        |
| 8月           | ・オープンキャンパスのオンライン開催  |                        |
| 9月           | ・秋季卒業式を挙行   |                        |
| 10月          | ・秋季入式を挙行<br>・新大祭を対面・オンラインで開催(対面は学内者限定)  |                        |
| 11月          |   |                        |
| 12月          | ・学内の職域接種実施(オミクロン株追加2回接種)  | ● 第7波                  |
| 2023年<br>1月  |   |                        |
| 2月           |   |                        |
| 3月           | ・卒業式を朱鷺メッセで挙行   |                        |
| 4月           | ・入式を朱鷺メッセで挙行<br>・対面授業を基本とした   |                        |
| 5月           |   | ● 5類感染症移行              |



人影のない五十嵐キャンパス(2020年度)

## 必ず終わるものだと 強く伝え続けた

状況に応じて今は何をするべきで、何をするべきではないのかという行動指針を出していました。また、不安を感じる学生、特に新入生については学部ごとに精神的なサポートをしてほしいと指示を出し、保健管理センターにも啓蒙的な情報を出してもらいました。そして、今の困難な状況は必ず終わるものだということを強く伝えました

## コロナ禍の学生生活 経済的課題への 大学の対応

感染拡大の長期化が予想される中、懸念されたのが学生の経済的な問題だ。家庭の急激な収入減やアルバイトができなくなったりなどの理由で、学費の納入や生活費の確保が難しくなるという問題も生じてきた。そのため新潟大学で

は2020年5月には「新潟大学新型コロナ対策緊急学生サポートパッケージ」をスタート。授業料免除、特別奨学金の給付、修学支援貸与金などの従来支援に加え、授業料等の納付期限の延長や新型コロナ対策緊急支援金(貸与)などの新規支援が盛り込まれた。

「国の支援より早く大学で学生をサポートする必要があると考え、短期から中長期までを考えた学修支援と経済的な支援を行いました。また、アルバイトができるなくなったという学生に対しては『お金は労働の対価として出されるもの』という教育的な観点から、下級生のサポートや図書館蔵書のICタグ付けなど、学内でのアルバイトを提供することで支援しました」

サポートパッケージは2023年9月末で終了。期間中のWi-Fiルーターの貸し出しは延べ267件、新型コロナ対策緊急支援金(貸与)は43名、修学応援・生活支

## コロナ禍で進展した 学内環境の アップデート

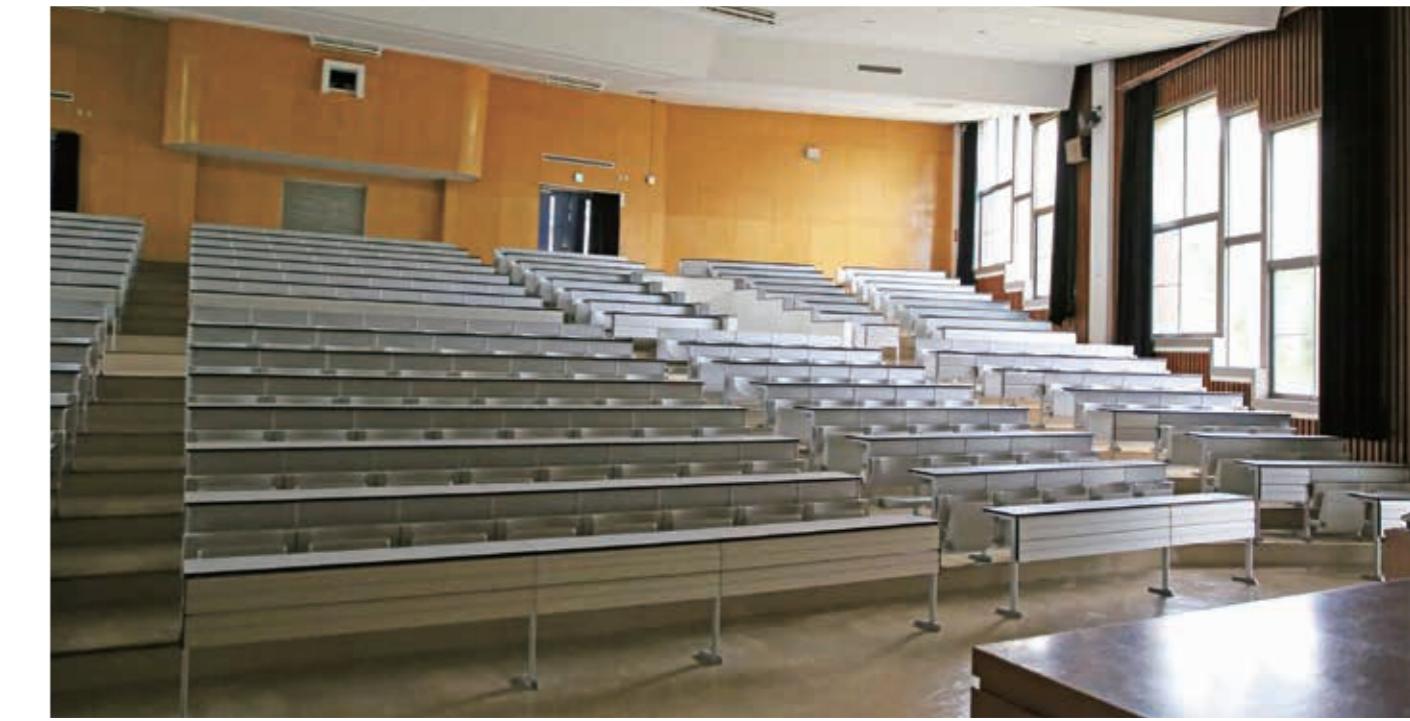
援金(給付)は72名が利用するとともに、学生自立支援(アルバイト提供)は179件となった。

また、新型コロナウイルスの感染拡大は、大学の施設と学び方にも大きな影響を及ぼした。学内における水栓の自動化や、ゼミ室・実験室の換気設備の整備、総合教育研究棟の講義室への個別電源増設など、キャンパス内の環境整備もこの時期一気に進められた。

2020年夏に学内の全ての部屋の換気調査を実施し、設備を新たにしました。同時に学内のLAN環境も調査し、全ての部屋に整備しました。特にオンラインシステムについては日本の大学は海外

に比べて非常に遅っていました。コロナ禍でその差を取り戻したのではないかと考えています」

新型コロナウイルスのパンデミック以前と以降、最も激変したのはコミュニケーションのオンライン化のよう思われる。様々な会議・対話システムが普及した結果、今では



寂しい講義室(2020年度)

## 新潟大学における新型ウイルス感染拡大防止のための行動指針(学生に関わること)

2023年4月1日からの新潟大学の状況

| 授業・実習  | 課外活動                                | キャンパス内への入構                                |
|--|-------------------------------------|---|
| レベル3<br>● 非対面型授業のみ<br>● 学生は自宅・自室で受講(Lv1_1)               | ● 全面的な活動停止(Lv3_2)                   | ● 入構禁止(Lv3_3)                             |
| レベル2<br>● 非対面型授業及び対面型授業<br>● 対面型授業を基本として実施(Lv2_1)        | ● 条件付きで、活動実施(Lv2_2)                 | ● 不要不急な入構を自粛(Lv2_3)<br>● 不必要な入構は自粛(Lv2_4) |
| コロナ後の日常<br>● 対面型授業を基本として実施<br>● 换気の実施<br>● コロナ後の日常への記述1) | ● 感染防止に配慮した活動を実施2)                  | ● マスクの着用を求めないことを基本とする3)                   |
| コロナ前の日常<br>● 通常通り実施                                      | ● 通常通り実施                            | ● 通常通り実施                                  |
| 図書館の利用   | 海外留学・旅行                             | 国内移動                                      |
| レベル3<br>● 休館   | ● 全て禁止                              | ● 新潟県外への移動自粛                              |
| レベル2<br>● 利用制限(Lv2_5)                                    | ● 一定の条件を満たす教育・研究活動のみ許可(Lv2_6)       | ● 特定地域への移動の自粛                             |
| コロナ後の日常<br>● コロナ後の日常への記述4)                               | ● 渡航先の入国・行動制限に即す<br>● コロナ後の日常への配慮5) | ● 混雑した電車・バス等では、マスク着用を推奨6)                 |
| コロナ前の日常<br>● 通常通り実施                                      | ● 通常通り実施                            | ● 通常通り実施                                  |

## 海外渡航にかかる可否判断基準

| 外務省海外安全情報<br>危険情報及び感染症危険情報          | 学生                                      | 教職員                                     |
|-------------------------------------|---|---|
| レベル1：<br>十分注意してください。                | 原則可<br>ただし、渡航を中止すべき相当な理由・状況があれば不可       | 原則可<br>ただし、渡航を中止すべき相当な理由・状況があれば不可       |
| レベル2：<br>不要不急の渡航は止めてください。           | 原則不可<br>ただし、渡航の必要性と渡航可としうる相当な理由・状況があれば可 | 要検討<br>渡航可としうる相当な理由・状況があれば可             |
| レベル3：<br>渡航は止めてください。(渡航中止勧告)        | 不可                                      | 原則不可<br>ただし、渡航の必要性と渡航可としうる相当な理由・状況があれば可 |
| レベル4：<br>退避してください。渡航は止めてください。(退避勧告) | 不可                                      | 不可                                      |

初期の様々な対応策の中で、とりわけ印象的だったのは、学長自身が未知の感染症に対して「正しい知識を持つて恐れること」という

メッセージを発信し続けたことだ。感染拡大防止のための行動指針を定め、「授業・実習」「課外活動」「キャンパス内への入構」「図書館の利用」「海外留学・旅行」「国内移動」という6つのカテゴリを設定。感染状況や国・自治体の動きに合わせて、その時々の状況を4段階で評価した。

「コロナ禍において重要なのは正しい知識を持つこと。その上で知恵を持ち寄り、工夫していくことでいた。そのため、正しい情報と知識を迅速かつ正確に学内に伝えることを考えてメッセージを発信しました。広義では私自身も感染症の専門家なので、現状に対する科学的な根拠と、変化し続ける

## 正しい知識と知恵 メッセージを通して

## 【コロナ禍で得たもの～学生の声～】

### 学生生活をサポートするアプリ開発で自信 記憶に残るサービスやモノで社会に貢献する

大学院自然科学研究科 材料生産システム専攻 田中大翔さん



2019年の学部入学直後、なまりのある友人に「学食に行かん?」と誘われたことを覚えています。学食前の仮設ステージでは軽音楽部が演奏し、サークルの勧誘も活発で、学生たちの人波に飲み込まれた記憶です。県外から来た同世代の友人たちは非常に刺激的で、先輩たちの大人びた服装も目を引きました。先輩から新歓時に教えてもらった噂や口コミはある意味で生活情報の全てでした。充実していました。

しかし、2020年にはそれができなくなりました。対面での活動は制限され、私たちは情報の発信手段を失い、新入生は情報を得る手段を奪われたのです。これは非常に不便で、新入生にとっては不遇だと感じました。そこで私は、少しでも大学生活を手助けしたいと思いアプリ・CIRCLEを開発しました。

CIRCLEは、団体運営者がサークル情報を発信し、学生は必要な情報を手に入れることができます。学生間の口コミで得られるような男女比情報や非公認団体の情報も集約されています。さらにサークルに限らず、飲食店や新大祭のコンテスト企画の情報も含めるなど、以前は先輩との会話から得られたような情報を意識して取り入れました。結果、年間利用者数が1万人弱というアプリになりました。

現在、新型コロナウイルス感染症は落ち着き、従来通りの生活が戻りつつあります。利用者数は減少し、以前のような勢いはありません。アプリ開発者としては少し寂しいですが、当初の目的は達成できたのだと思っています。ご利用いただきありがとうございます。

今後も人々の記憶に残るサービスやモノを生み出したいと思います。現在は、大学院で半導体の研究をしていますが、直近ではちょっと自慢できるような結果を、中期的には半導体業界で爪痕を残し、最終的には業界に関係なく自分の名前が検索エンジンで一番上に出てくるぐらいの貢献をします。

2021年2月から高齢者や医療従事者を先行して新型コロナワクチン接種が全国的に開始されたことを受け、学内での職域接種の実施を決定。保健管理センター主導により、同年7～11月に1回目・2回目、翌2022年4月と5月に3回目の学内接種を実施し

た。また、医学部法医学分野との共同で学内PCR検査の体制を整備。抗原検査を含めた管理運営を担った。センターとして初めてのことであり、当初は運営マニュアルもない状態でのスタートだったという。「会場設営や物品準備、医師と対応スタッフの確保などを細かに

設定し、実際に接種が始まつてからも繰り返し調整して進めていました。医師確保など様々な苦労がありました。医師確保など様々な苦労がありましたが、他部署の先生や職員の方々に協力いただいたおかげで、大きなトラブルや混雑はなく実施できました。この新型コロナウイルス感染症対策の取組の記

にありました」

## コロナ禍での 学びと成長 未来への期待

新型コロナウイルス感染症は5類感染症に移行し、様々な制限がなくなってきたように思える。困難な時代に学生時代を過ごした学生や卒業生たちに伝えるべきメッセージとはどのようなものか。再び牛木辰男学長に聞いた。

「大学生活とは、多様な人と出会い、そこでのコミュニケーションを通して成長していく貴重な時間であることは間違ひありません。行

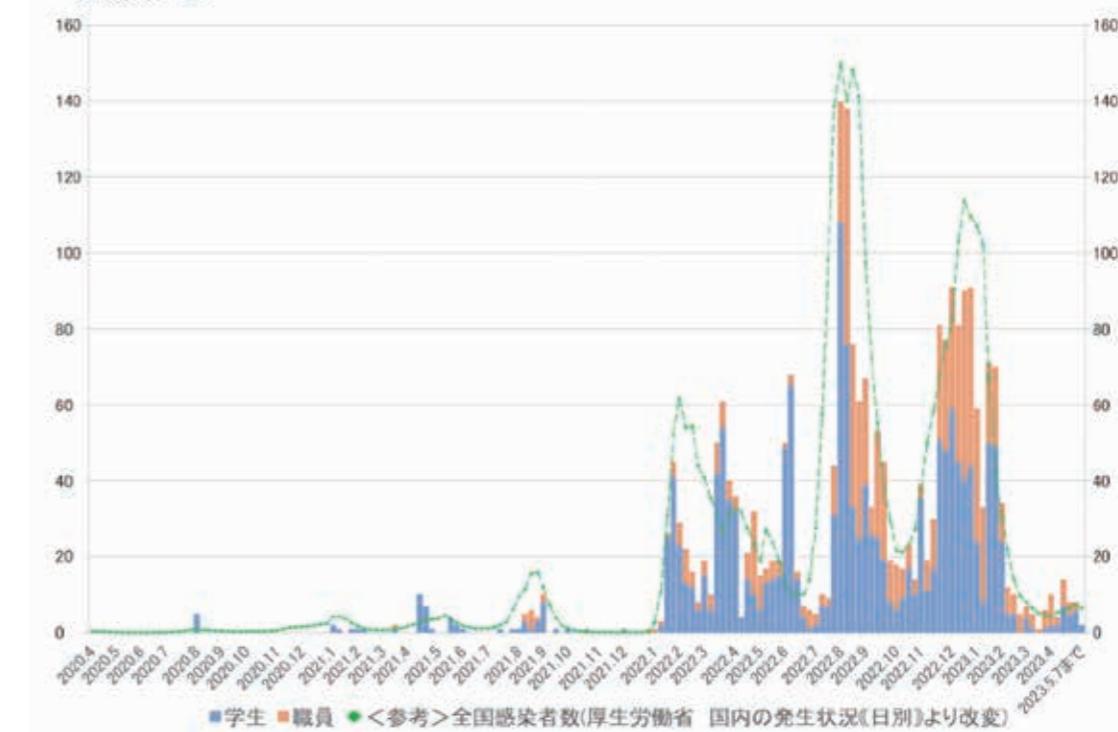
録は、今後また発生するであろう新たな感染症に備えるための参考になると思います」

動が制限され生涯の友人や趣味を得る機会が少なくなってしまったことは本当に残念なことです。しかし、そのような状況下でも、好奇心を最大限に發揮し、限られた行動範囲の中でも今にしかできない豊かな時間を作つてもらいたいということを私は伝え続けてきました。困難な時代を生きることを選択できるかは非常に重要なことである。この時代を生きたことをネガティブに捉えました。困難な時代を生きることを余儀なくされた一方で、「コロナ禍でしかできなかつたことや、好奇心を最大限に發揮し、限られた行動範囲の中でも今にしかできない豊かな時間を作つてもらいたい」ということを私が伝え続けてきました。

「災害や戦争など社会的な危機の中で自らにとてベストな生き方を選択できるかは非常に重要なことである」と思える。この時代を生きたことをネガティブに捉えました。困難な時代を生きることを余儀なくされた一方で、「コロナ禍でしかできなかつたことや、好奇心を最大限に發揮し、限られた行動範囲の中でも今にしかできない豊かな時間を作つてもらいたい」ということを私が伝え続けてきました。

「災害や戦争など社会的な危機の中で自らにとてベストな生き方を選択できるかは非常に重要なことである」と思える。この時代を生きたことをネガティブに捉えました。困難な時代を生きることを余儀なくされた一方で、「コロナ禍でしかできなかつたことや、好奇心を最大限に發揮し、限られた行動範囲の中でも今にしかできない豊かな時間を作つてもらいたい」ということを私が伝え続けてきました。

新潟大学(COVID-19 感染症報告数 2020年4月1日から2023年5月7日まで)



# この時代を 乗り越えた誇りが 前に進む力になる

就職活動等で県外にいる学生のゼミ参加や、オンラインでの就職相談や留学が可能になるなど、学生にとっての利便性が向上し、経済的・時間的負担が軽減されるようになった。

「オンライン化はコロナ禍で一気に進み、社会を大きく変えたと思いました。新潟大学ではオンライン講義のためにZoomを導入しましたが、私自身はそれがベストだとは思っていました。なぜならZoomは会議システムであり、教育システムではなかったからです。

しかし、オンライン講義を短期間で整備する必要があった中で、操作性が直感的で視覚的に最もシンプルなのがZoomだったのです。

Zoomは会議システムであり、教育システムではなかったからです。しかし、オンライン講義を短期間で整備する必要があった中で、操作性が直感的で視覚的に最もシンプルな工夫をして講義に取り入れてくれた教員には本当に感謝していますし、現在ではZoomにも様々な機能が追加され非常に使いやすくなっています。また、就職活動においても企業は一気にオンライン面接に舵を切りました。そのため、駅南キャンパスときめいともオンライン面接用の部屋を新たに作りました」

## 心のサポートまで 保健管理センターが 果たした役割

学内の感染症対策において重要な役割を果たしたのが新潟大学保健管理センターだ。ウェブサイトでの感染対策や関連情報の発信、学生・職員の体調不良者の保健指導、感染者の把握、濃厚接触者の判定、入試における感染対策に取り組んできた。黒田毅所長に聞いたら。

「2020年の発生当初は、様々に起因してメンタルに不安を抱える学生の増加が予想されました。例年実施している『生活と気分に関する調査』の集計データを分析すると、大きな傾向として軽度の抑うつと不安状態が増加していることが分かりました。それらを踏まえて、各相談部署と連携し、注意喚起メールの送信やメンタル相談、外部医療機関への紹介、これらの健康セミナー実施などの取組を行いました。全学生を対象に学生・職員の体調不良者の保健指導、感染者の把握、濃厚接触者の判定、入試における感染対策に取り組んできた。黒田毅所長に聞いたら。

「新型コロナウイルス感染症は5類感染症に移行し、様々な制限がなくなってきたように思える。困難な時代に学生時代を過ごした学生や卒業生たちに伝えるべきメッセージとはどのようなものか。再び牛木辰男学長に聞いた。

「大学生活とは、多様な人と



新大祭は2022年度に学内限定で対面開催が復活、2023年度は対面開催

感染症は5類感染症に移行し、様々な制限がなくなってきたように思える。困難な時代に学生時代を過ごした学生や卒業生たちに伝えるべきメッセージとはどのようなものか。再び牛木辰男学長に聞いた。

「大学生活とは、多様な人と出会い、そこでのコミュニケーションを通して成長していく貴重な時間であることは間違ひありません。行

くべき経験は必ずや力となつて大きな試練だったと思います。しかし、この経験は必ずや力となつて将来に活かされるだろうと私は信じています。なぜなら、私たちが生きている社会には様々な試練が待ち構えているのが常だからです。みんなさんはこれから的人生においても予期せぬ出来事に遭遇することでしょう。この時代を乗り越えたといふ誇りを持つて、前に進んでい



新潟大学  
黒田毅 保健管理センター所長

# Enjoy! 学生ライフ

新潟大学の学生は、勉学はもちろん  
部活やサークルなどの課外活動でも活躍しています。  
このページではそんな青春の1ページをお届けします。



↑部員は選手18名、マネージャー1名の計19名。全日本大学女子サッカーフェスティバルや地域対抗戦、県リーグへの参加など積極的に活動している

## 女子サッカーチーム

### 本音を交わせる雰囲気が コミュニケーション力を高める

「ずっとサッカーが大好きという人もいれば、大学で新しいスポーツを始めたいという人もいて入部の理由は様々です。でも、一番多いのは『部全体の仲の良さに惹かれて』という人です」と部長の高橋花音さん。練習時間は平日の朝6時半から8時まで。「全員朝から元気です。1限の授業がなければ、パン屋さんで朝食と一緒に食べることもあります」。本音で意見を交わせる雰囲気が部員同士のコミュニケーションを高めている。

●活動は火曜から金曜の週4回。新潟市内にあるサッカー場で行う。冬は五十嵐キャンパスの体育館で練習している



先輩と後輩の  
隔たりがなく  
経験者も初心者も  
楽しめます

高橋花音さん  
(経済科学部3年)

ニケーション力を高めているといふ。部活動運営は3年生を中心。課題の発見から目標設定、メニューの組み立て、試合の戦術、反省と改善まで、全て自分たちで行う。「試合後はチームとしても個人としても悔しい思いをすることが多く、それを何度も乗り越えていいプレーができると成長を感じます」。技術の向上だけでなく、仲間とともに主体性や責任感などを育む場にもなっている。



### 新潟大学公式アプリ配信中

在学生、受験生、卒業生向けの情報をコンパクトにまとめ、  
随时お届けします！  
ぜひダウンロードください。

App Store Google Play



## 根津洸希助教

Koki Nezu

### Profile

博士(法学)。専門は刑法、刑罰論。2023年4月に設置された新潟大学ELSIセンター専任教員。2016年からAIと法について研究。



『生命倫理』では、生命についての倫理上の問題を現実的に感じることができるように、医事法・先端技術・環境保護という3つの観点からアプローチしていく。法学部2年生以上の学生に加え、他学部の学生も受講可能。「科学の発展により私たちの生活は便利になります。様々な利益がもたらされる

ようになりました。その一方で、『AIを用いて遺伝子改变をしてもよいか』など、新たな問い合わせも提起されています。分野を越えた複合的なこれらの難問の争点を整理し、考えていくことがこの授業の目的です」と担当教員の根津洸希助教は話す。自身が専任教員を務める「新潟大学ELSIセンター」

議論を通じて考え方をプラスシュアップ  
先進的で多様なテーマにも触れる



意欲ある学生が伸び伸びと勉学に勤しむ

# 授業紹介

## —教育の現場—

専門的な知識や技術の修得と、均整の取れた知識の獲得は教育の重要な役割。約5,000科目の中から特色ある授業を紹介。

## 法学部



語られてきた倫理問題について、1時間の講義とディスカッションだけで答えを出すのは危険だと思っています。ひとつの考えに凝り固まらず、学生たちの意見を突き崩し、揺らす試みをしていきます

では分野横断的な研究を行っており、その成果が授業にフィードバックされている。授業前半は講義形式、後半は学生間でフリーディスカッションを行う。この日のテーマは、保護されべきは環境か人間か。「環境に内在的価値があるのか」

では、「価値相対主義からの多样性」など、様々な議論が展開された。授業後、学生は議事録を提出し、その内容を基にして次の授業の議論

2022年  
10月オープン

### STUDENTS VOICE



左:村田彩夏さん(法学部2年)

右:稲葉匠哉さん(法学部3年)

「自分の考えについて周りから指摘された矛盾点などをふまえつつ、結論を導き出していくディスカッションの過程が楽しいです。毎回テーマが興味深く、学年や学部を超えて意見交換できます」(村田)  
「必ずしも『良い・悪い』という結論にはならないところが生命倫理の面白さだと思います。AIと法律の問題には以前から興味を持っていました。法学を学び続け、考える力の引き出しを増やしていきたいです」(稲葉)

病気と闘う子どもと、  
その家族が一緒にいられますように。



—小児医療宿泊施設— ドナルド・マクドナルド・ハウスにいがた

ハウスの運営は100%皆様からのご寄附で支えられています。温かいご支援をよろしくお願ひいたします。

詳しい  
情報

新潟大学 ドナルド・マクドナルド・ハウスにいがた

検索

研究  
題目生命システムの成り立ちを  
タンパク質ネットワークから理解するプロテオーム解析で  
生命科学全体の発展に貢献する

世界中でゲノム解読プロジェクトが進行した近年。2000年代前半にはヒトや主要なモデル生物種のゲノム配列の解読が完了し、ポストゲノム時代が到来した。しかし、生命がどのような仕組みで動作しているかを理解するためには、ゲノム配列情報がどのような仕組みで生命システムを構成するのかを知る必要がある。研究を進めるのはシステム生化学分野の松本雅記教授だ。

「ほとんどのゲノムは、ゲノムから発現するタンパク質の総体である『プロテオーム』に変換され、その中で構築された回路によって生命システムは



医学部医学科  
松本雅記 教授

【Profile】博士(理学)。専門は質量分析、タンパク質化学。質量分析計を用いてタンパク質を研究する。

特別なあなたに 特別な1枚  
「新潟大学カード」

新潟大学全学同窓会では、三菱UFJニコスと提携して、ゴールドプレステージの「新潟大学カード」を発行しています。多くの特典を享受できるとともに、新潟大学の支援にもつながります。入会のお問い合わせは全学同窓会まで。



## 入会受付中!

新潟大学カードに関するお問い合わせ先

新潟大学全学同窓会事務局

電話：025-262-7891

(受付時間 平日 10:00~15:00)

E-mail : n-doso@adm.niigata-u.ac.jp

特典 年会費無料 海外・国内旅行傷害保険付き(最高3,000万円) 国内主要空港のラウンジが無料

研究  
題目

## 佐渡島の海産無脊椎動物研究

個性的な生態系を持つ佐渡近海で  
海洋生物の進化や生態を調べる

佐渡島の豊かな自然を生かし、「森・里・海」を総合的に探究する佐渡自然共生科学センター。海洋領域を担う臨海実験所では、日本海の特性を背景に佐渡沿岸域に生息する海洋生物の多様性と特性を明らかにすると共に、フィールドワークを通じた実践的海洋生物学教育をミッションに掲げている。大森紹仁助教は、ナマコやウミシダ、ゴカイなどの海産無脊椎動物を研究。スクьюバダイビング

などで採集後、形状や遺伝子、生息する環境など複数の情報を統合し、その進化や生態を調べる。

「海洋生物の研究は研究環境が整っている沖縄や太平洋側では盛んでですが、日本海側ではそれほど進んでいません。特に佐渡の海は、暖かい海流を運ぶ対馬暖流と冬の季節風による冷たい水塊の影響をともに受ける点。太平洋側とは異なるユニークな生態系があり、まだまだ分からないことが多い興味深い場所です」



▲佐渡島の新種ゴカイ・キングギドラシリス。体の後方が複雑に分岐する非常に珍しい体制を有する



▲佐渡島の砂泥海岸で多く見られるサドナデシコナマコ。砂に潜り砂中の有機物を食べるミズのような生態を示す



佐渡自然共生科学センター  
大森紹仁 助教

【Profile】博士(理学)。専門は進化発生学、系統分類学、生態学。ウミシダやナマコといった棘皮動物を対象として、発生における形態形成機構の進化や生態、種分化を研究。

砂はきれいな状態が保たれます」

また、海を取り巻く環境は、護岸工事や埋め立て、付近に流入する河川の工事によっても急激に悪化する恐れがあるため、絶えず動向に留意する必要があると大森助教は続ける。

「温暖化やゴミの問題などの影響を受け、海の環境はどんどん変わってきています。豊かな海にある多様性を総合的に理解することは、海洋環境の保全にとっても非常に重要です」



新潟大学キャリア・就職支援オフィス

CAN システム

卒業生と新潟大学生をつなぐ、キャリア形成サポートの新しいカタチ！  
卒業生と学生をつなぐ CAN システム

CAN システムとは Web 上のシステムを介して、学生の就職活動やキャリア形成をサポートしていただくシステムです。  
社会の先輩として学生たちの悩みや不安にアドバイスをお聞かせください！

卒業生の皆様のご登録をお待ちしています！

新潟大学 CAN システム

検索 URL https://www.career-center.niigata-u.ac.jp/



2024年、  
新潟大学は  
創立75周年を  
迎えます

↑昭和47(1972)年4月  
に五十嵐キャンパスの新  
校舎が竣工。同月下旬に  
移転作業が実施され、5月  
1日より新校舎での授業  
が始まった。



↑新潟大学人文学部は昭和24(1949)年5月、西大畠キャンパスに開設された。校舎は新潟高等学校校舎の西側にある同校グラウンド内(現本学附属学校の場所)にあり、当初は2学科(人文科学科、社会科学科)8専攻。入学定員は155名であった。写真は昭和43(1968)年頃に撮影。



## 新大メモリアル写真館 あのとき、あの場所



くりはらかし  
栗原 隆  
新潟大学名誉教授

学術博士。専門分野は近世哲学、生命環境倫理学。昭和49年、新潟大学人文学部哲学科卒業。同51年、新潟大学人文学専攻科修了。平成3年教養部助教授に就任。その後人文系部助教授として教鞭をとる。同29年、定年退職。

話を聞いたのは旧校舎を知る栗原隆名誉教授。当時は小説家を目指す文学青年。大学の近くにあった文学好きや詩人が集まる喫茶店に入り浸っていた。

「私は昭和45(1970)年に入学し、西大畠の校舎には2年間通いました。床は木製で冬はとても寒い。今では信じられないのですが、建物内での喫煙は当たり前。研究室でサンマを焼く教授もいて、まるで山の分校のような牧歌的な時代でした。晩春になると、校舎と松林の間にニセアカシアの白い花が一斉に咲いてきれいでした」

昭和47(1972)年、人文学部は五十嵐キャンパスに移転する。校舎の周辺に建物もない。講義が終わったら生協で夕飯を食べてから内野駅まで歩く毎日です」

専門に選んだ哲学の世界は広がり、学部卒業後は人文学専攻科で2年間、その後は、名古屋大学、東北大学、神戸大学の大学院で学び、大学教員を目指した。

「森進二の『港町ブルース』の歌詞ほど、全国各地の大学に応募ましたがご縁あって新潟大学の教養部が助教授として採用してくださった。大学教員を目指す者たちは青春を費やしたにもかかわらず夢がかなわなかつた方がほとんど。私はたくさんの方々に背中を押していただき、学生を教える立場にいた。その責任感を重く感じたものです」

その後、人文学部の助教授、教授を経て、平成29(2017)年に定年退職。以降もフロー、非常勤講師、教育支援員として教壇に立ち、自身の研究も続ける。熱意の根底には、新潟大学で過ごした学生時代があるという。一食べるものも食べず、なぜあれほど本を求めたのか。そこに渴望を満たすものがあり、その渴きから自由になれると思っていたのかもしれません。しかし、学んだからといって満たされたわけではなく、その先には次の渴望した世界が見えてくるし、それは今日も続いている。この年齢になって「人間はどう生きるべきか」と問う日々。今の学生には『10年後、自分は何をしているか』と明確に意識しながら生きてほしいと思います」

## COLUMN ◇ 新潟大学教員によるコラム “知見と生活のあいだ”

本学教員がそれぞれの専門領域と日常の接点を題材に、日々の生活に通じる理論やアイディアを綴るリレー式コラム。第28回は農学部です。

### 第28回●農学部「災害への食の備えを進める:早期の復興に向けて」

**食の備えの変化**  
家庭等での食品備蓄は「最低3日分から7日分×人数分」が推奨されています(農水省)。公的備蓄は、避難所の全避難者に対して十分な食を長期提供できないことが公表され、各個人の備えが求められています。

普段食べ慣れた食品を多めに買い備えるローリングストックは災害対応力を大幅にアップさせます。

さらに災害専用食品の活用が有効です。従来は一般成人向けの食品が中心でしたが、被災地には高齢者、乳幼児、制限食を必要とする方、食物アレルギーの方等もいます。そこで安全で要配慮者を意識した食の備えの推進のために「日本災害食認証制度」が設けられ現在、全国で239食品が認証されています。

04年の新潟県中越地震の発生時に、全国有数の食品加工地帯である新潟の食関係者が多く被災したことにより、産学官の連携での研究・開発や、具体的な食づくりが継続的に進み出しました。その後、災害食づくりが全国的な動きとなり、2013年に有識者により日本災害食学会が設立(本部:東京)。2023年に「災害食の事典」を発刊しました。

意外にも阪神淡路大震災等での食の経験は十分に継承されておらず、2004年の新潟県中越地震の発生時に、全国有数の食品加工地帯である新潟の食関係者が多く被災したことにより、産学官の連携での研究・開発や、具体的な食づくりが継続的に進み出しました。その後、災害食づくりが全国的な動きとなり、2013年に有識者により日本災害食学会が設立(本部:東京)。2023年に「災害食の事典」を発刊しました。

近 年、地震、水害、雪害等が多く、災害多発時代を乗り越えるために「食の備え」が重要です。



↑近年の災害食、非常食の事例



→「日本災害食」認証マーク(一般社団法人日本灾害食学会)



→災害食の事典 食(日本灾害食監修、朝倉書店、2023年9月発刊)

**災害食の事典とは?**  
食の備えをさらに進めるため本書は、災害食の定義、食と災害の種類(地震、水害、豪雪、土砂災害等)、食の備え方、栄養・機能、防災教育、衛生問題、海外の事例、事業継続等の内容から構成されています。全国の約70名が携わり、新潟大学からは総合大学の特色を生かして6名が本書に協力しました。総論他(別府茂、新潟大学大学院客員教授、筆者)、新潟県中越地震と食

備えられた乳児対策では近年、液体ミルクが開発され、熱源やお湯がなくとも対応可能な商品が出ました。食品関係者の努力で状況は変化しています。

要配慮者対策は進み「日本災害食認証食品」の63%は食物アレルギーに配慮した食品です。遅れていた乳児対策では近年、液体ミルクが開発され、熱源やお湯がなくとも対応可能な商品が出ました。食品関係者の努力で状況は変化しています。

**災害に備える**  
備えあれば憂いなし。食の備えには、被災経験者や食に詳しい方が、「当たり前」と思わず情報伝えていくことが重要です。海外の災害に生きすべく、細やかな日本の食対策の国際提案も進んでいます。

### 藤村忍 農学部教授



地域連携フードサイエンスセンター事務局を担当。専門は栄養学。アミノ酸代謝を基に食肉の機能性の強化を研究。また災害食など食品の美味しさや機能性の研究に取り組む。

## 新潟大学 リサイクル募金

お申込み

新潟大学リサイクル募金

0120-29-7000

(受付)  
9~18時

(運営) 嵐嶽野株式会社 〒358-0053 埼玉県入間市仏子 916 埼玉県公安委員会 古物商許可証 第431100028608号

企画 新潟大学サポーター連携推進室  
TEL. 025-262-5651, 6010

眞の強さを学ぶ。  
新潟大学  
NIIGATA UNIVERSITY

読み終えた本や不用品が募金となって  
学生の修学支援などに役立てられます

「新潟大学に寄附したい」とお伝えください



眞の強さを学ぶ。  
新潟大学  
NIIGATA UNIVERSITY



# Campus Information

地域に密着しながら様々な活動を続ける新潟大学。皆さんにお伝えしたいニュースはたくさんあります。

## オープンキャンパスを 4年ぶりに対面開催しました

8月9日(水)、10日(木)の2日間にわたりオープンキャンパスを開催しました。

4年ぶりに対面での全面開催とし、両日とも猛暑の中、高校生、保護者の方など県内外から約9,000名の参加がありました。

各学部・学科による模擬授業や研究のパネル展示・体験のほか NICE プログラムやダブルホーム等本学の特徴的な取組に係る展示及び説明会、学生が案内するキャンパスマスター、学生との交流コーナーなど多様なイベントが開催され、キャンパスは多くの方で賑わいました。



## 第1回 カーボンニュートラル次世代人材育成セミナー（2023年度第1回 新潟大学カーボンニュートラル融合技術研究センター研究会）を開催しました



9月15日(金)、本学研究統括機構カーボンニュートラル融合技術研究センター（以下、「IRCNT」）と新潟県の主催で、カーボンニュートラル次世代人材育成セミナーを開催しました。オンラインと対面のハイブリッド開催となった今回は、本学の学生・教員と全国の企業関係者を含めた約200名が参加しました。

IRCNTの児玉竜也センター長による開会の挨拶の後、招待講演では、荒川忠一 東京大学名誉教授から、洋上風力発電について世界と日本の現状を紹介いただきました。また、岡崎健 東京工業大学名誉教授から、水素の利活用にかかる課題と期待、新潟県2050年カーボンゼロ実現に向けた戦略をお話しいただきました。

続いて、本学の研究紹介として、工学部の山縣貴幸 准教授から、風力発電風車ブレード表面の摩耗の評価方法について、同学部の藤田和泰 准教授からは、太陽電池の材料開発についての研究紹介がありました。

閉会の挨拶では、新潟県産業労働部 創業・イノベーション推進課の川島俊哉課長から、2050年カーボンニュートラル実現に向けた新たな技術革新の必要性とそれを担う学生や若手研究者への激励が述べられ、盛会のうちに終えました。

## ドナルド・マクドナルド・ハウス1周年記念セレモニーが実施されました

2022年10月1日にオープンした「ドナルド・マクドナルド・ハウス にいがた」（以下、「にいがたハウス」）において、9月30日(土)に1周年記念セレモニーが実施されました。

にいがたハウスは、病気の子どもとそのご家族のための滞在施設で、本学医歯学総合病院地区構内（旭町キャンパス）に、本学及び公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン（以下、「DMHC」）が共同で設置し、DMHCが運営を行っています。その運営は、約220名のボランティアによって支えられ、オープンからの1年間で同病院等に入院・通院する子どもとそのご家族315組（9月末時点）を「第二の我が家」としてサポートしてきました。

セレモニーには、五十嵐隆 DMHC 理事長、富田善彦 医歯学総合病院長ら約30名が出席し、節目を祝いました。富田病院長からは、にいがたハウススタッフへの謝辞が述べられ、ボランティアに感謝状が贈られました。

最後に、にいがたハウスを利用しているご家族による電子オルガン、オカリナの演奏があり、和やかに締めくされました。

